

豊 嶋 康 子 を

詩 に 翻 訳 す

る ワ ー タ シ

ヨ ツ プ 記 録

さる3月3日に「豊嶋康子を詩に翻訳するワークショップ」が行われました。この企画はタイトルの通り、豊嶋康子の作品を短詩（五七五や五七五七七）に翻訳するというものです。ここでは主に、ワークショップで実際に参加者が制作した詩を紹介していきたいと思います。それぞれの詩は、特定の豊嶋作品やシリーズを題材に書かれています。どの作品のことを指しているのか、クイズ感覚で想像しながらお読みいただければ幸いです。

当館インターンの筆者は、詩とデザインを架橋するコレクティブ「pH7」に所属しており、そのバックグラウンドを活かしてこの企画を考案しました。とはいえ、美術館でのワークショップに言語表現を導入するというあまり例のないアイデアは、筆者の我田引水のこじつけだけだったわけではありません。

豊嶋作品を見始めた当初から、それらは言語表現、なかでも短詩の表現に通じる特徴を持っている、と筆者や「pH7」のメンバーは直感していました。その理由は、まず端的に、作品の形式的な操作が〈反転〉〈接続〉〈羅列〉といった日常的に馴染みの深い言語的な操作に似ているからです。そしてもう一步踏み込んで考えれば、豊嶋が作品を制作するときに「フレーム」や「ルール」と呼びうるものを自らの思考と身体に課している、その方法論がまさに、あるルールを設定することでルールとの距離感という散文にはない次元を付与し一語一語にかかる負荷を強めるという、短詩（川柳、俳句、短歌等）の方法に共通しているからです。

以上のような気づきから、豊嶋康子が木材や絵具や銀行のシステムといったさまざまな素材に対して行っていることを、私たちとしては言語を素材にトレースしてみるという試みを企画することにしました。豊嶋作品の構造を借りることで、言語という日常的な素材の潜在性に気づくこと、あるいは反対向きに、言語表現のことを考えながら鑑賞することで、豊嶋作品の新たな側面に気づくことが、私たちのこめた期待でした。

そして実際にワークショップを行った結果、参加者の皆さんの驚くほどの積極性にも助けられ、期待以上の成果が挙げられました。その内実は、この後に続く素晴らしい詩作品たちをお読みいただければ自然とご理解いただけるものと信じています。

伊澤拓人（インターン、pH7）

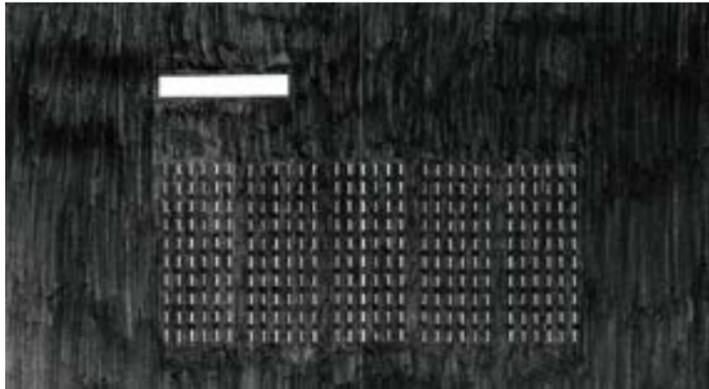
今私、^{ヒト}土です。
来世はダンサーです。

手の跡は水面にゆるゝビルディング



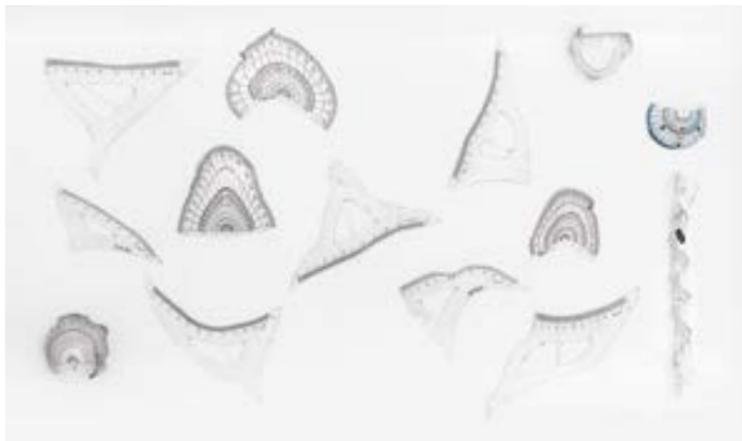
《復元》 2003-2006 粘土、卵殻、煎餅、埴輪ほか

ぼくたちはもうもどれない 海の色
チーズみたいにとろける 数字



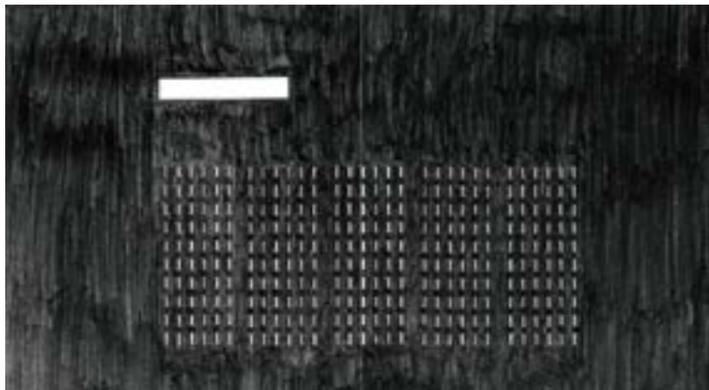
《マークシート》 1989-1990 オフセット印刷、鉛筆、紙ほか

塗りこめた
ひとりのあがき
音が止む



《定規》 1996-1999 三角定規、分度器ほか

海^{うみ}の韻踏む胎^{はら}や
吾^わを甘く揺すれ



《マークシート》 1989-1990 オフセット印刷、鉛筆、紙、机、椅子ほか

この国にプロメテウスの来る前は
柔らかい皿で魚を食べたさ



《固定／分割》2009- 紙、水系、竹、縄

貝 離した
手に磁気響き
一行詩



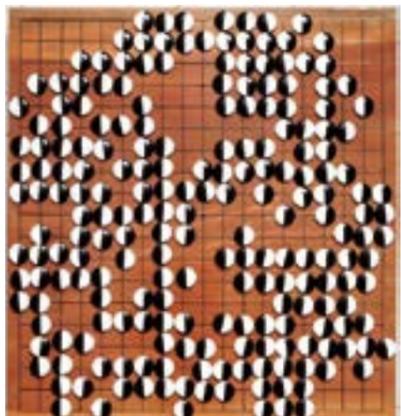
《復元》 2003-2006 粘土、卵殻、煎餅、埴輪、陶器の破片、紙

生き死にはねむれぬ夜の雨のシミ



《口座開設》 1996- 銀行通帳、銀行カード

線分な
細胞迷ひたらば僕



《名人戦》 1992 ポリウレタン塗料、砥の粉、ユリア樹脂、アクリル絵の具、桂



《ジグソーパズル》 1994 ジグソーパズル

を 子 康 嶋 豊
す 訳 翻 に 詩
シ タ ワ る
プ ツ ヨ

2024年3月3日 14:00 ~ 16:30
東京都現代美術館 B2F 研修室2・企画展示室1F
伊澤拓人（インターン、pH7）片田甥夕日（pH7）

pH7 について

本ワークショップの講師を務める pH7 は、視覚表現と言語表現を架橋する活動を展開するコレクティブです。詩歌とそれを載せる媒体を絵体としてデザインした作品を制作し、書店等で販売しています。近作は『pH7.3 字・窓』（2023）。他にワークショップ、パフォーマンス、執筆も行っています。メンバーは伊澤椅子（伊澤拓人）、片田甥夕日、片山嵐太郎の3人。



Instagram



Web



pH7.2 [嬉しき玩具]



pH7.3 [字・窓]



執筆・デザイン：伊澤椅子

このワークショップは、豊嶋康子作品を短詩(五七五や五七五七七)に翻訳するという試みを通して、新たな作品鑑賞の仕方を体験することが目的です。作品から五七五を作るとしても、その方法は様々です。外見を描写したり、受けた印象を比喩にしたり、作品の特徴を言葉の並べ方で写しとってみたり。今回のワークショップでは、豊嶋作品のあり方を、言葉の組み合わせによってできるかぎりなぞってみるという挑戦をしていただきます。

参加者の皆さんには右にあるリストから、詩にしたい作品を二つ選んでいただきます。展示室にてしばらく鑑賞の時間をとった後、二つの作品について一つずつ短詩を作り、できあがったら全員で発表し合います。そのとき、それぞれの詩がどの作品から着想を得たものかをクイズにして、作者の方以外に答えてもらいます。

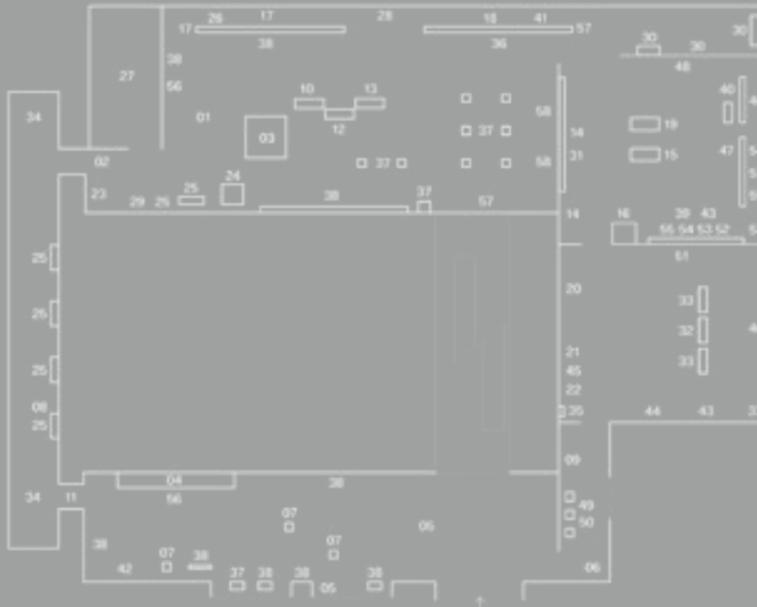
クイズにするためには、どの作品についての詩なのか、わかりそうでわからない、ちょうどよい塩梅を目指さなければなりません。直接的に作品の見た目を描写することを避けつつ、それでも作品と詩の共通点が伝わるようにしなければなりません。講師からのアドバイスを受けながら、作品に対する自分なりの理解や印象を短詩にしてみましょう！

制作

展示室で採集してきたメモを元に、まずは端的に五七五を整えてみましょう(文字数が足りないと感じたら、五七五七七にしても構いません)。一度出来上がったら、担当の講師に見せて、フィードバックをもらってください。直接的に形や素材を描写する表現をできる限り避け、豊嶋作品と詩とが適切な距離を確保できるように、少しずつ修正していきましょう。二つの詩が出来上がったら、好きな方を選び、発表しましょう。

作品鑑賞

リストから作品を二つ選び、展示室に行ってよく観察してみましょう。まずはみたまの印象や自分の感覚から連想した言葉を、自由にメモしていきましょう。作品と結びついてさえいれば、単語でも文章でも、どんな内容でも構いません。なるべく多くの要素を集めるのがおすすめです。これらが、詩を作る上での素材となります。



- | | | | |
|-----------------------------|----------|-----------|---------|
| 01 マークシート Fill in the blank | 12 定規 | 25 復元 | 38 パネル |
| 02 エンドレス・ソロバン | 13 鉛筆 | 26 生涯設計 | 43 棚 |
| 03 名人戦 | 15 口座開設 | 28 色調補正 2 | 46 四角形 |
| 05 ジグソーパズル | 23 描かれた人 | 34 固定/分割 | 47 バタバタ |
| 10 安全ピン | 24 折り紙 | 37 隠蔽工作 | 57 収納装置 |

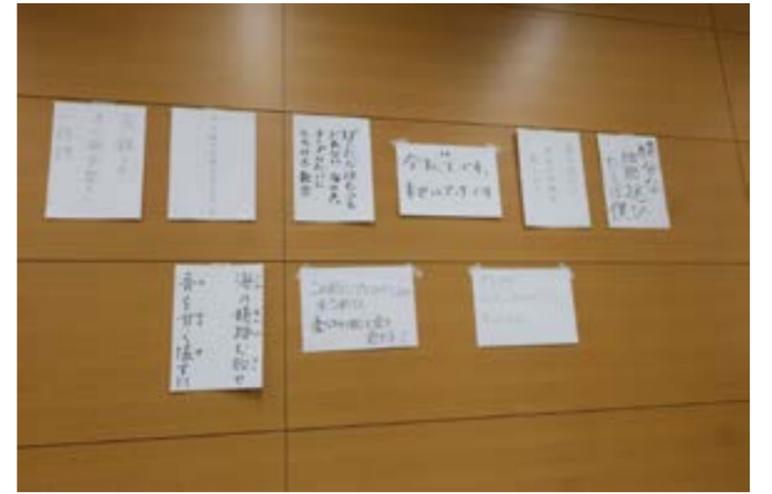
発表とクイズ

参加者一人につき一つずつの詩を全員で鑑賞していきます。まずは誰がどの作品について制作した詩なのかを伏せて読んでみます。その詩がどの作品のことを指しているのかを、クイズのように当ててみましょう。どんなところがどのように似ているのかを全員で話し合い、最後に作者から答えを発表してもらいます。他の人の詩についても、豊嶋作品との繋がりを考えながら読むことで、自分との感じ方の違いや作品の新たな側面に気づくことができるでしょう。

見本

選べないまま夜は来て窓に雪
ふと満面の笑みがある消えている
右の肩上がり下がりの兄妹が重力脱出する宙返り

上の作品は、講師が実際に豊嶋作品からインスピレーションを得て制作しました。それぞれの作品を元に行っているか当ててみてください！



企画 伊澤拓人（当館インターン、pH7）
 配布物制作 伊澤拓人
 講師 伊澤拓人、片田朔夕日（pH7）

日時 2024年3月3日（日）14:00-16:30
 場所 東京都現代美術館 B2F 研修室2・企画展示室 1F
 定員 10名（高校生以上）
 当日参加者 9名
 参加費 無料

ワークショップ概要

本ワークショップの講師を務めた pH7 は、視覚表現と言語表現を架橋する活動を展開するコレクティブです。詩歌とそれを載せる媒体を総体としてデザインした作品を制作し、書店等で販売しています。近作は『pH7.3 字・窓』（2023）。他にワークショップ、パフォーマンス、執筆も行っています。メンバーは伊澤椅子（伊澤拓人）、片田朔夕日、片山嵐大郎の3人。



Instagram



pH7.2『嬉しき玩具』



Web



pH7.3『字・窓』

pH7について

豊嶋康子を詩に翻訳するワークショップ 記録

豊嶋康子 発声法—天地左右の裏表

2023年10月9日(土)–2024年3月10日(日)

東京都現代美術館 企画展示室1階

豊嶋康子を詩に翻訳するワークショップ

2024年3月3日(日)

編集・デザイン 伊澤拓人

発行 pH7

発行年月日 2024年3月4日

